記録映画
アーカイブ・プロジェクト
第７回ワークショップ

原子力発電と安全神話
――原発PR映画を見る

東日本大震災による福島第一原子力発電所の事故によって、
原発の安全神話は大きく揺らぎました。
日本の原子力の平和利用が始まって半世紀。
戦後史の中で原発はどのように記録されてきたのでしょうか。
成長神話や安全神話はどのように作られてきたのでしょうか。

プログラム

13:00－	**開場**
13:30－	**開会** 総合司会：丹羽美之（東京大学）
13:40－	**映画上映**（117分） **『東海発電所の建設記録』**（1966年、46分） **『原子力発電所と地震』**（1975年、20分） **『海岸線に立つ日本の原子力発電所―鳥の見た島国のエネルギー』**（1987年、27分） **『いま原子力発電は…』**（1976年、24分）
15:40－	**休憩**
16:00－	**討論** 羽田澄子（映画監督） 藤本陽一（早稲田大学名誉教授） 吉見俊哉（東京大学）
17:30	**終了**

上映作品　紹介

『東海発電所の建設記録』

企画　日本原子力発電株式会社　製作　岩波映画製作所

茨城県東海村にできた、日本初の商業用原子力発電所の記録。英国製の黒鉛減速炭酸ガス冷却型原子炉で、チェルノブイリ原発と同タイプ。現在は原子炉解体が進められている。施工側が記録した『原子力発電の夜明け』（製作：東京シネマ）もある。日本原電は電力各社の出資会社。

『原子力発電と地震』

企画　資源エネルギー庁　製作　鹿島映画

地震に対して原子炉は安全であると科学的根拠を示し、説明した映画。以後このテーマで何回も作られている。資源エネルギー庁は経済産業省の外局。1973 年オイルショック後、日本のエネルギーの安定供給と原発推進のために設立。原子力安全保安院もここにある。

『海岸線に立つ日本の原子力発電』

企画　日本立地センター　製作　岩波映画製作所

「鳥の見た島国のエネルギー」の副題が語るように、1986 年当時の日本の美しい海岸線に建つ原発が空から記録されている。企画の日本立地センターは地域社会の発展を図るため 1962 年設立された経済産業省下の財団。

『いま原子力発電は…』

企画　放送番組センター　製作　岩波映画製作所

放送番組センターが地方局に配信するために制作したテレビ番組「地球時代」シリーズの１本。放映を希望する局は僅かだったため、多くの人の目には触れなかった。３年後にアメリカのスリーマイル島で原発事故が起きる。　演出　羽田澄子、撮影　西尾清

登壇者プロフィール

羽田澄子（監督）
1950 年岩波映画製作所入社。岩波写真文庫の編集をへて 1957 年監督デビュー。以後、岩波映画で数多くの記録映画の脚本演出を手がけた。1981 年からフリー。代表作に『村の婦人学校』『薄墨の桜』『痴呆性老人の世界』最近作は『遥なる大連・旅順』2010 年

藤本陽一（物理学者　早稲田大学名誉教授）
1956 年東京大学原子核研究所教授。1963 年早大教授、理工学研究所長。西村純らと開発したエマルジョン-チェンバーをもちいて 1962年ブラジルで宇宙線シャワーを観測した。 1925 年、東京生まれ。

■茨城大学 記録映画上映企画 2011■

原子力発電と安全神話
ー原発ＰＲ映画を見る
茨城上映会

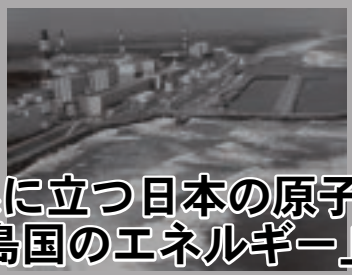
原発ＰＲ映画の上映と講演

日時　2011 年 12 月 17 日（土）
13：00～16：30（開場 12：30）
会場　茨城大学教育学部Ｄ棟
Ｄ201 教室（水戸キャンパス内）
定員　250 名　入場無料　全席自由

「上映作品」

「東海発電所の建設記録」（1966 年製作）

「原子力発電所と地震」（1975 年製作）



「海岸線に立つ日本の原子力発電所
―鳥の見た島国のエネルギー」（1987 製作）

参考上映作品「いま原子力発電所は…」（1976 年製作）

主催：茨城大学教育学部・記録映画保存センター
協力：東京大学大学院情報学環記録映画アーカイブプロジェクト

※この上映会のプログラムは、東京大学大学院情報学環記録映画アーカイブプロジェクト第７回ワークショップ（10 月 30 日実施）のプログラムを元に企画されています。